

全国理事会に代わるところ報告

(目次)

1 会長あいさつ	_____	p2
	東京都立科学技術高等学校長 赤石 定治	
2 全国大会について		
(1) 平成27年度 青森大会について (青森大会事務局からの報告)	_____	p2
(2) 平成28年度 石川大会について (石川大会運営委員会からの報告)	_____	p3
(3) 平成29年度 埼玉大会について (埼玉大会事務局からの報告)	_____	p3
3. 企画運営部関係	_____	p3
(1) 研究代表者会議(研代会)の運営について		
(2) 青森大会のアンケートについて		
4. 研究部関係	_____	p3
(1) 「研究紀要」と掲載論文について		
(2) 「大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い」・・・支部事務局宛		
5. 経理部関係	_____	p3
6. 実践集の作成について	_____	p3

[別添資料等]

別添資料

(別添資料 1) 研究代表者会議 (研代会) の運営について	_____	p 4-5
(別添資料 2) 大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い	_____	p 6
(別添資料 3) 理科教育実践集についてのお願いと書式	_____	p 7-8

別添ファイル

- (別添ファイル1) 大学入試センター試験の問題に関するアンケート
- (別添ファイル2) 大学入試センター試験の問題に関するアンケート集約用紙
- (別添ファイル3) 平成26年度日本理化学協会決算書 (一部修正)

参考ファイル (既配布ですが参考資料として添付します。)

参考ファイル1 石川大会概要

参考ファイル2 平成27年度日本理化学協会予定

本文

1 会長あいさつ

都立科学技術高等学校長 赤石 定治

都立科学技術高校の赤石です。前会長・現顧問である坂井先生の理科教育充実に向けた力強い姿勢とこれまでの取組みを継承しながら、さらなる充実発展に向け全力で取り組んでまいります。今後とも、ご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

本年夏の青森大会は、青森県立浪岡高等学校長太田正文大会運営委員長、青森県立青森南高等学校神孝幸事務局長を始め、東北ブロック及び青森地区の先生方のお力で、盛大に充実した内容で開催することができました。心より感謝申し上げます。そして、来年平成28年度の総会及び全国理科教育大会は、北信越ブロックの石川大会となります。多くの先生方が参加されますようご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理振予算について、平成27年度の理科教育設備整備費等補助金（理振予算）は20.8億円でしたが、6月19日に第一回交付決定が通知され、総額で約16.2億円でした。補助金の残が約4.8億円あり、第2次募集案内が7月2日に通知され、8月13日に締め切られましたが、応募合計金額は1億円にも満たない状況でした。現在、この残に対し9月3日に第3次募集が通知されています。毎月16日までの交付申請に対して翌月16日交付決定を行い予算消化まで繰り返します。観察・実験を重視した理科教育を実現させる環境を整備するため、各校での理振備品や理振台帳の整備と各教育委員会への働きかけをよろしくお願い申し上げます。

科学の話題について、自然科学3分野（医学・生理学、物理学、化学）での日本のノーベル賞受賞者は、2015年の今年、医学・生理学賞を「抗寄生虫薬「イベルメクチン」の開発」で大村智氏（北里大特別荣誉教授）と、物理学賞を「素粒子ニュートリノに質量があることを発見」で梶田隆章氏（東大教授）の2人が受賞され、昨年の物理学賞3人に続き計21人（米国籍の2人を含む）となりました。2000年以降「1年に1人」のペースで受賞者を輩出していることは、日本の科学が人類の幸福に貢献している証でもあり、大いに誇れることでもあります。このような快挙が未来を担う子供たちに引き継がれるよう、科学が注目を集めているこの時期こそ、これからの日本の理科教育を見つめ直す良い機会だと思います。新聞紙上では、近年の日本人受賞者に地方国立大学出身者が目立っていることについて、大学関係者からの「有力国立大学より重圧が少なく、のびのびと学べる雰囲気があるのでは」という声や、日本学術会議の大西隆会長の「受験勉強の優秀さと研究者としての資質は違う。志のある人を全国の大学で受け止め、しっかりとした教育をうけさせたということ」という指摘などを紹介しています。また、動物行動学研究者エッセイストの竹内久美子氏は、科学の研究のために本当に必要なことについて、「今自分が身に置いている分野のこれまでの研究の歴史と、今何が問題になっているかを把握すること、これからどんな研究をすべきで、そのためには実験などをどう組み立てるか、といった物事を見極める能力、あるいは勘やセンスのよさ」や、共同研究者との議論やそのための基礎知識、英語の論文を読み書く能力が必要であり、そしてこれらの能力以上に「その分野が好きでたまらないということ」が不可欠だと述べています。

これからの理科教育について、理数の新教育課程はこの3月で完全移行し、それに対応した入試も実施されました。今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方は、学力の重要な3つの要素（① 基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる。② 知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む。③ 学習に取り組む意欲を養う。）の育成です。次期学習指導要領改訂に向け、理数重視を継続させる理科教育の実践が重要です。また、8月に示された次期学習指導要領の骨子案では、大学入試制度改革を見据え、数学と理科を横断的に扱う新たな選択科目として「数理探究」を設けるほか、児童や生徒が自ら課題を発見して解決を図る「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる学習手法の導入も盛り込まれています。新たな時代を生きる子供たちの一人一人に必要な能力を「学力の3要素」（①十分な知識・技能、②それらを基盤として答えが一つに定まらない問題に自ら挑戦していく思考力・判断力・表現力等の能力、③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）と整理し、育成すべき資質能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直しと学習評価の充実、アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善などの視点が挙げられています。

我々、日本理化学協会としては、せっかく充実しつつある理科教育を後退させないため、調査部や教育課程委員会などの研究を進めるとともに、理科教育関係団体や経済団体なども力を結集して、子供たちに研究することの楽しさや素晴らしさを体験させ、理科の「好き」な子供を育てる理科教育の更なる充実と振興に取り組んでいかなければならないと思っています。

2 全国大会について

（1）平成27年度 青森大会について （青森大会事務局からの報告）

青森大会は『確かな未来を担う理科教育～協働の学びと問題解決能力の育成～』をテーマで、青森市民ホールおよび青森東高等学校を会場とし、7月29日（水）～31日（金）の期間で開催いたしました。協会役員をはじめ、全国理科教育関係者の方々のご支援、ご協力により、400名を超える参加者を迎えて無事終了することができました。心より感謝申し上げます。青森大会らしい日本原燃、青函トンネル、八甲田山系のコース別研修を体験していただき、「多様な生徒に対応した理科教育」の研究協議をテーマとして追加して実施しました。そこで得られたものは、参加者の皆さまの日頃の教育活動に十分に活かされていくものと確信しております。

① 会誌第2号については、11月発送を目途に役割分担しながら作業を進めています。

② 大会収支決算については、会誌第2号関係の費用の支出後に確定し、2月の全国理事会で報告する予定にしております。

(2) 平成28年度 石川大会について (石川大会運営委員会からの報告)

来年度の全国理科教育大会第 87 回日本理化学協会総会は、「確かな未来を担う理科教育～探究する力を育むために～」をテーマとして、平成 28 年 8 月 8 日(月)～10 日(水)の日程で金沢工業大学扇が丘キャンパス(石川県野々市市扇が丘 7-1)を会場に開催します。現在、石川県はもちろん、北信越ブロック各県の会員が協力して準備を進めており、記念講演は、金沢工業大学革新複合材料研究開発センターの鶴澤潔所長にお願いし、巡検は、砂金とり体験コース、新幹線車両基地及び炭素繊維見学コース、金沢文化堪能コースの 3 コースを予定しています。詳しくは、来年 4 月にお届けする『石川大会のご案内』をご覧ください。

石川県で本大会が開催されるのは、昭和 53 年の第 49 回以来、38 年ぶり 3 回目となります。さらに、今年 3 月に北陸新幹線が金沢まで開業し、東京～金沢間が最短で 2 時間 28 分となり利便性も向上しております。是非この機会に、石川大会にご参加いただき、実り多き時間を共有できることを願っております。今後とも、引き続きご指導・ご支援をお願いします

(3) 平成 29 年度 埼玉大会について (埼玉大会事務局からの報告)

埼玉大会は平成 29 年 8 月 8 日(水)～10 日(金)の日程で、ウェスタ川越(川越市新宿町 1-17-17)及び川越市立川越高等学校(川越市旭町 2-3-7)を会場として開催予定です。川越は「小江戸」と呼ばれ、情緒ある蔵造りの街並みで知られています。県内には理化学研究所(和光市)や鉄道博物館(さいたま市)、あるいは日本地質学発祥の地「秩父ジオパーク」等、理科教育に携わる私たちにとって興味深いスポットが数多くあり、最終日の巡検も多彩なコースを検討しています。2 月の理事会には「第 88 回 埼玉大会のご案内」(案)を提示したいと考えておりますので、引き続きご指導・ご支援をお願いします。

3. 企画運営部関係

(1) 研究代表者会議(研代会)の運営について

「研究代表者会議(研代会)の運営について」(別添資料 1)に、年間を通しての研究協議・研究発表に関する手順を記載いたしました。2 月の研代会にて、次年度大会の意見提示者、座長などの各都道府県分担の調整を行います。研究協議の分科会テーマと概要(案)及び研究発表会場数は、2 月の全国理事会において決定することになります。

(2) 青森大会のアンケートについて

青森大会では従来実施していた「全国理科教育大会・青森大会に関するアンケート」は、実施していません。大会実施についての課題や問題点につきましては、2 月の研究代表者協議会で協議したいと思います。

4. 研究部関係

(1) 「研究紀要」と掲載論文について

10 月 29 日(木)、研究紀要に掲載する論文について、論文審査委員会が開催され「青森大会研究発表論文(資料)集」から 17 点(物理 9 点、化学 8 点)、また「各支部刊行の研究誌」から 5 点(物理 3 点、化学 2 点)の論文が採択されました。

研究紀要の論文は、学会・研究会・大学・学校などにおける研究発表論文と同等に評価を受けていますので、二重投稿とならないような配慮が必要です。また、「各支部刊行の研究誌」から採択された論文掲載の可否は、該当支部事務局に連絡しますので、本人に直接掲載の可否を問い合わせ、協会事務局にご連絡ください。

研究紀要に掲載する論文は、主として全国理科教育大会の「研究発表論文集」から審査、採択します。また、「各支部刊行の研究誌」からも採択しています。各支部所属の会員に研究紀要に掲載される場合があることを周知してください。

(2) 「大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い・・・支部事務局宛

来年 1 月に実施される平成 28 年度大学入試センター試験(「物理基礎」及び「物理」並びに「化学基礎」及び「化学」の本試験)の問題に関するアンケートのお願い(別添資料 2)とアンケート用紙及びアンケート集約用紙(別添ファイル 1 及び 2)のファイルを添付しました。会員へ周知いただき、アンケートは、対象の科目ごとに回答を取りまとめ、各支部で集計の上、メールでお答えいただきたくお願い申し上げます。なお、依頼文、アンケート用紙は、近日、本協会の HP からダウンロードできるようにいたします。

5. 経理部関係

青森大会の会誌に記載された 26 年度日本理化学協会会計報告は、全国大会関係の記述がありませんでした。改めて全国大会を含めた収支決算書を添付します。(添付ファイル 3)

6. 実践集の作成について

一昨年度末より新しい学習指導要領への取り組みが進められ、理科では科目「理数課題研究」の新設などが検討されています。理科に限らず、すべての教科・科目において「何を教えるのか。」「どのように教えるのか」ばかりでなく「どう生徒を変えたのか又は変えるのか」が大きな課題となり、生徒の課題発見力、課題解決力を育成するアクティブ・ラーニング等の新しい教育の手法の開発が求められています。このような中で実験観察などを通して生徒の思考力・創造力・発表力を育ててきた理科の果たす役割は非常に大きいと思われます。今回、協会が中心となつていろいろな理科の実践を集めて実践集を作成し、全国の理科の先生の実践の交流を図りたいと考えました。添付資料(別添資料 3)を全会員に周知頂き、積極的な応募をしていただきますようにご連絡をお願いします。(事務局)

研究代表者会議（研代会）の運営について

平成27年11月配布
日本理化学協会 企画運営部

1. 研究代表者会議の運営について

研究代表者会議は、全国大会を第1回とし、年3回の全国理事会の同日午後開催しております。つきましては、この文書にて、これからの研究代表者会議（研代会）の運営スケジュールを確認させていただきます。

年度末で各県の代表出席者が変更された場合（特に退職された場合）など、引継の不徹底が生じますので、この「研代会の運営について」の引き継ぎをお願い致します。

(1) 27年度第2回研代会（2月） ★H28.2.14（日）東京理科大学森戸記念館

ア) 8月に開催された全国理科教育大会の開催県からの連絡、反省、質疑等

イ) 次年度の開催県から、日程、研究協議題等の概要の報告、検討、承認

【注】①研究協議題は開催県で作成し、常務理事会、2月研代会を経て、決定される。研究発表、研究協議の分科会数も概ね確認する。

②研究協議の内容については、開催県の案内に、協議内容のテーマ設定趣旨概略が記載されている。研究協議の意見提示者は、それを参照されたい。

ウ) 研究協議の座長、意見提示者の分担県の決定

エ) 研究発表の座長の分担県の決定

【注】①研究協議・研究発表の各座長1名、意見提示者1名は、原則開催ブロックから選出する。

②研究協議の意見提示者は2～3名とする。

③物理、化学以外の座長、意見提示者は、開催県を中心に人選をお願いしたい。

④座長、意見提示者の氏名連絡用紙は、2月の研代会で配布（ファイルを各県事務局にメールにて送付します）し、回収締め切りを4月中旬とし、5月の研代会で氏名一覧を確認する。

（この氏名連絡用紙も、「研代会の運営について」と共に確実に引き継いで下さい。）

⑤研究発表の発表助言者は、本部より全国副会長を中心に人選する。

オ) 各座長、意見提示者等に送付する印刷物原稿の内容検討

①研究協議関係

(1)座長のご委嘱 (2)意見提示者のご委嘱

(3)意見提示者向け研究協議の原稿執筆要領

(4)研究協議の座長・意見提示者の申し合わせ事項

(5)座長、意見提示者の派遣依頼

（原則として、各校長宛依頼書・校長の場合は各教育委員会教育長宛依頼書）

②研究発表関係

(1)座長のご委嘱

(2)発表助言者のご委嘱

(3)座長、発表助言者の派遣依頼〔宛先は、①(5)と同様〕

カ) 再来年度の開催県（埼玉）から、日程等の概略説明

キ) 大会アンケートの集計結果の報告（次回以降の開催の資料とする）

ク) 5月の研代会の協議予定の説明（∵各県出席者が毎年替わるので）

☆年度の切り替え時期を迎え、各県代表者の異動、交替に伴う連絡不徹底により、各県の分担がはっきりしない状況や、また人選が時期的に困難な状況の県が生じます。本部の担当者には、その経緯は伝わらず、締め切り以降に確認に苦勞する実態がございます。締め切りに間に合わない場合は、必ず氏名連絡用紙の担当者連絡先にメール・電話・FAXでご連絡下さい。

27年度連絡先:東京都立武蔵高等学校・岩渕 寛

Hiroshi_Iwabuchi@education.metro.tokyo.jp TEL:0422-51-4554,FAX0422-51-3966

本人直通 090(9688)9013 dormier1981@ezweb.ne.jp

※各県の研究代表者は担当者氏名等を4月中旬までに送付して下さい。

(2) 27年度第3回研代会 (5月) ★H28. 5. 8 (日) 東京理科大学森戸記念館

ア) 研究協議の座長、意見提示者の決定

イ) 研究発表の座長、発表助言者の決定

【注】研究発表の発表助言者は、理科教育大会の閉会式の代替として、各研究協議の終了時に閉会の辞を述べて頂くので、本部より各副会長、各部部長等より人選する。その際、各先生の専門に配慮して分科会に配置する。

ウ) 全体協議の司会、総合司会の決定

エ) 今年度のアンケート原稿の検討と承認

※ ア) イ) の決定資料として、研究協議、研究発表、全体協議の担当者氏名一覧を配布します。

(3) 28年度第1回研代会 (8月) ★H28. 8. 8 (水) 石川県金沢工業大学 扇が丘キャンパス

ア) 大会初日；研究代表者会議

研究部、調査部、各種委員会等の時間配分は企画運営部で行う。

イ) 大会2日目；研究発表、研究協議の各分科会の打ち合わせ会

会場設定は開催県で行い、5月配布の申し合わせ事項のプリントに日時・場所を掲載する。再度、申し合わせ事項の概略の印刷物、打ち合わせの要点の印刷物を準備し配布する。企画運営部と開催県でどちらが準備するか、事前に確認する。

(例年は開催県で準備されます。)

2. 研究代表者会議において、各部等より恒常的に報告等の行われるもの

(1) 第2回研代会 (2月)

調査部；①今年度調査部アンケートの集計結果について

(2) 第3回研代会 (5月)

研究部；①研究発表論文選考について

②協会賞選定について

③大学入試センター試験問題の検討結果について

調査部；①今年度調査部アンケートの内容について

【注】 研究発表・協議の座長・意見提示者を各県で氏名決定するのは、2月に分担県が決定した後、4月中旬までに人選して氏名を報告してください。

物理・化学以外の分担のできる県が少なく、担当県の決定に困難が生じます。

生物・地学と合同の研究団体の県は、2月までに開催県の大会案内等を調査、事前に準備方よろしくお願ひ致します。なお、参加費・交通費等の補助はありません。各県で補助して頂くか、個人負担となります。また、座長・意見提示者・研究発表者は個人で申し込みが必要となります。

日本理化学協会
各都道府県支部事務局御中

日本理化学協会

研究部長 大川 登喜彦

大学入試センター試験の問題に関するアンケートについて

菊薫る候、皆様にはますますご清祥のことと、お喜び申し上げます。

さて、来年1月に大学入試センター試験が実施されますが、例年、大学入試センターから、試験問題の内容に関しての意見を日本理化学協会に求められます。

つきましては、物理基礎、物理、化学基礎及び化学の4科目について試験問題に関するご意見を寄せていただき、研究部でとりまとめ日本理化学協会の意見案を作成したいと思います。

別紙アンケートを会員に配布いただき、大学入試センター試験の問題に関するご意見をお書きいただき、都道府県支部ごとにとりまとめ、集計結果を平成27年1月29日(金)までに下記宛に送付していただきますようお願い申し上げます。

なお、校務への影響及びとりまとめ作業の都合上、エクセルファイルで作成した文書をメールに添付してお送りいただくようお願い申し上げます。また、メールの件名は「〇〇試験問題〇〇県アンケート集計」(例 物理基礎試験問題〇〇県アンケート集計)としていただくようお願い申し上げます。

送付先

[物理基礎及び物理]

〒153-0044 東京都目黒区大橋2-18-1
東京都立駒場高等学校

村田 律子

[電子メール: Ritsuko_Murata@education.metro.tokyo.jp] (はアンダーバーです。)

電話 03-3466-4811 ファクシミリ 03-3466-5240

[化学基礎及び化学]

〒154-0002 東京都世田谷区下馬4-1-5
東京学芸大学附属高等学校

岩藤 英司

[電子メール: iwatoh@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp] (はハイフンです。)

電話 03-3421-5151 ファクシミリ 03-3421-5152
(化学室直通電話) 03-3421-7821

理科教育資料集についてのお願い

日本理化学協会事務局

私達理化学協会は、大正15年の創立以来、一貫して自主的な実験・観察の工夫を推進してきました。第一回大会(大正15年)の文部省への答申にみられる視点こそ、生徒の自主性・自発性を伸ばして人材を育成する理科教育の面目躍如たるものでしょう。

文部省への答申(日本理化学協会第一回全国大会・大正15年)より

「教授法を改善すること。生徒をして充分自覚せしめること。生徒実験書に記載せる実験方法はあまりにくわしき為に生徒自身の工夫がありません為に、実験の価値が乏しくあります。実験法を考案すること。実験を追及して結論を得ること。」

また、

「自由実験を課外として奨励すること。自発的に生徒が自由実験をやるようになってこそ(理科教育は)目的を達するものであります。」

以上は共に鳥取倉吉女北野氏の答申案

「生徒実験は、できるだけ創作的発見的にやらすこと」。

以上は、鳥取第一中長本氏の答申案

大正15年全国中等学校理化学教員協議会報告號(大正15年7月20日発刊)より一部抜粋

このような伝統を今日のような教育の転換期にも引き継ぎ、理科教育を大きく発展させていくことが私達の使命であると考えます。

一方、諸々の事情もあり、ここ十数年来大会参加者も大きく減少し、発表者の数も残念ながら減少しています。この状況を打破するとともに、会員の教科指導を通じた連携を深めるために「全国理科教育実践集」を作成することとしました。

そこで、手始めに全国の先生方から、授業実践(授業・実験・実習等)、指導法の工夫、課題研究等の指導法、理科の指導法についての意見等の要旨を書いて頂いたものを提出して頂き、東京都の土屋徹先生を中心とした委員会でご提出いただいた要旨を整理して、後により詳しいレポートを提出いただき、実践集へとまとめていきたいと考えています。

生徒とのかかわりの中で、これはという実践例であれば種類を問いません。生徒とのやり取りの例も含め、遠慮なくお送りください。以下に簡単な参考例を挙げておきます。

(参考)

映像技術により生徒の興味を引き付けた某定時制高校の実践例(主体的・協働的・能動的学習)

1学期は通常の理科の学習を行い、2学期にビデオ技術を教え、これを使った理科のビデオ番組を制作した。3学期に意欲的な生徒が、番組「台風」に動画や模擬実験を取り入れて制作した。全校で発表会を実施し、参加者評価アンケートをとり、これと共にペーパーテスト、制作活動等の視点から生徒と授業を総合評価した。

次ページの要旨様式に記入して頂き、事務局長あてにお送りください。締切は1月15日(金)とします。

送付先 fwiw6844@gmail.com 菊池正仁あて

または、ファックスで日本理化学協会 03-3944-3295 へ

お願いいたします

理科教育実践集 要旨

発表者()
 所属校・住所()
 連絡先(*以下については本事業以外には使用しませんのでできるだけご記入ください。)
 *自宅住所 〒
 *携帯電話番号 TEL
 *自宅メール address address
 実践テーマ()
 実践テーマに係る教科・科目()
 内容の分類 ○をつけてください。 実験・観察 授業の指導法 理科授業についての考え方
 その他()

所属校の理科教育課程

科目	単位数・学年	教科	単位数・学年	科目	単位数・学年
科学と人間生活		生物			
物理基礎		地学基礎			
物理		地学			
化学基礎		理科課題研究			
化学					
生物基礎					

学校設定科目等についてもご記入ください。

(要旨)等

平成28年度大学入試センター試験問題（本試験）に関するアンケート

- 1 黄色のセルは、入力規則があり、クリックするとリストが表示されます。その中から選択してください。
- 2 水色のセルには意見、該当することを自由にご記入ください。

		所属
		氏名
	回答する科目(物理基礎、物理、化学基礎、化学)を教えてください。	
1	試験問題の程度(難易度)は全体として適切ですか。	
2	試験問題の設問数は適切ですか。	
3	試験問題の形式は適切ですか。	
4	出題分野のバランスがとれていますか。	
5	試験問題の中で難易度の高過ぎると思われるのはどの間ですか。	
6	試験問題の中で難易度の低過ぎると思われるのはどの間ですか。	
7	試験問題の形式が適切でないのはどの間ですか。	
8	学力を見るのによいのはどの間ですか。	
9	そのほか、試験問題に関する意見がありましたらご記入ください。	

ご回答ありがとうございます。

集計

日本理化学協会

28年度大学入試センター試験問題（本試験）に関するアンケート

※記述は枠を縦に広げて結構です。

回答都道府県

回答校数

回答数

校

人

回答する科目(物理基礎、物理、化学基礎、化学)を教えてください。					
1	試験問題の程度(難易度)は全体として適切ですか。	1	2	3	
2	試験問題の設問数は適切ですか。	1	2	3	
3	試験問題の形式は適切ですか。	1	2		
4	出題分野のバランスがとれていますか。	1	2		
5	試験問題の中で難易度の高過ぎると思われるのはどの問ですか。				
6	試験問題の中で難易度の低過ぎると思われるのはどの問ですか。				
7	試験問題の形式が適切でないのはどの問ですか。				
8	学力を見るのによいのはどの問ですか。				
9	そのほか、試験問題に関する意見がありましたらご記入ください(列挙いただいても結構です)。				

集計ありがとうございます。

平成26年度 収支決算書

日本理化学協会

収入の部					支出の部				
区分	科目	予算	決算	備考	区分	科目	予算	決算	備考
研究 大会 費	参加費	2,250,000	3,235,500	参加費、資料費 (登録一般370名、学 生1名、当日受付62 名)	研究 大会 費	謝金	300,000	22,000	講師謝礼、表彰者記念品等
	補助金	650,000	650,000	日本理化学協会		旅費	50,000	0	講師等交通費、会議交通費等
		300,000	300,000	日本化学会関東支部		借用費	100,000	500,000	会場借用費、PC・IC機器等借 用代
		300,000	300,000	東京都教育委員会		印刷費	2,000,000	2,518,261	大会案内、会誌1号・2号、論文集、講演記録 別刷り、大会封筒、資料袋、看板等
	協賛金	1,200,000	1,519,000	大会協賛等各団体		通信運搬費	100,000	156,995	郵送費、送料、振込手数料、運搬 リース料等
			27,000	ブース販売料		消耗品費	320,000	257,841	事務用品、実験講習会・懇話会経 費等
	ブロック負担金	800,000	876,197	東京都理化教育研究 会(東京大会準備金)		運営費	50,000	500,000	大会運営諸経費
	雑収入	0	130	銀行利息		HP運営費	1,700,000	1,874,076	HP開設費、HP運用費
						雑費	200,000	208,960	特別功労者記念品、名入り賞状筒 等
	合計	5,500,000	6,907,827			予備費	680,000	869,694	広報活動費
				合計	5,500,000	6,907,827			
協 会 本 部 費	1 繰越金	182,091	182,091		研究 調 査 費	1 謝金	20,000	20,000	講師交通費
	2 会費・支部	1,670,000	1,552,840			2 研究奨励費	50,000	27,701	各ブロック研究大会補助・協会賞 メダル
	3 会費・個人	50,000	35,000			3 資料費	700,000	985,750	全国大会資料代・コピー代
	4 会費・特別	500,000	470,000			4 通信運搬費	30,000	73,786	連絡・郵送費
	5 会費・賛助	2,350,000	2,500,000			5 消耗品費	10,000	14,574	事務用品(調査部等)
	6 雑収入	120,000	234,028			6 会議費	60,000	216,462	全国理事会・各部部会
					小計	870,000	1,338,273		
					刊 行 費	1 印刷費	450,000	472,446	紀要・会報作成
				2 通信運搬費		60,000	90,417	紀要・会報郵送	
				小計		510,000	562,863		
					事 務 局 費	1 旅費補助	220,000	206,640	通勤・出張費他
				2 印刷費		150,000	0	封筒等外部発注印刷	
				3 借損料		1,280,000	1,254,381	206号室代・コピー機レンタル	
				4 職員手当		1,200,000	1,200,000	事務局長	
				5 通信運搬費		100,000	128,312	郵送費等	
				6 消耗品費		20,000	12,463	事務用品等	
				7 会議費		150,000	34,968	部長会等	
				8 渉外費		80,000	17,122	他団体会費・慶弔費他	
				9 光熱水費		170,000	113,259	電気・水道	
				10 雑費		30,000	57,492	筆耕料他	
			小計	3,400,000	3,024,637				
				支出計	4,780,000	4,925,773			
				予備費	92,091	0			
合計	4,872,091	4,973,959		合計	4,872,091	4,925,773			
				次年度繰越金		48,186			

監査の結果、適正であることを認める。

平成27年4月28日

監事 八木橋 勉

監事 田口 哲男

平成28年度全国理科教育大会
第87回日本理化学協会総会
石川大会 概要（案）

大会主題

「確かな未来を担う理科教育」 ～探究する力を育むために～

大会の主旨

全国の高等学校等の理科教職員、理科関係者が一堂に会し、講演、研究発表、研究協議などを通して、学習指導要領のもと、興味・関心を喚起し、自らの生きる力を育む魅力ある理科教育の在り方及びよりよい指導方法を探る。

大会日程

第1日 8月8日（月） 金沢工業大学 扇が丘キャンパス（石川県野々市市扇が丘7-1）

	12:00	12:30	13:20	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00
受常 務理 事会 付		常 務 理 事 会	大会事前 打ち合わせ			全 国 理 事 会	文 部 科 学 省 講 話	研 究 代 表 者 会 議 並 び に 研 究 協 議 会
				全 国 理 事 会 研 究 代 表 者 研 究 協 議 会 受 付				
金沢工業大学 扇が丘キャンパス								

第2日 8月9日（火） 金沢工業大学 扇が丘キャンパス（石川県野々市市扇が丘7-1）

8:30	9:00	9:50	10:00	11:00	12:30	14:00	14:30	17:00	18:00	20:00
受 付	開 会 式 及 び 表 彰 式	写 真	総 会	記 念 講 演	昼 食	研 究 協 議 打 合 せ 及 び 研 究 代 表	研 究 協 議	移 動	教 育 懇 談 会	
金沢工業大学 扇が丘キャンパス										

※科学の広場 10:00 ～ 17:00

第3日 8月10日（水） 金沢工業大学 扇が丘キャンパス（石川県野々市市扇が丘7-1）

8:30	9:00	11:50	12:00	13:00
受 付	研 究 発 表	開 会 式	移 動	巡 検 (昼食含む)
金沢工業大学 扇が丘キャンパス				

※科学の広場 9:00 ～ 11:30

文部科学省講話 8月8日（月） 15:00 ～ 16:00 多目的ホール

演 題 「 検討中 」
講 師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課

記念講演 8月9日（火） 11:00 ～ 12:30 多目的ホール

演 題 「 検討中 」
講 師 金沢工業大学 革新複合材料研究開発センター所長 鵜澤 潔 教授

研究協議 8月9日(火) 14:45～17:00 23号館

第1分科会 「確かな未来を担う物理教育」

思考力、判断力、表現力を育み、科学的な自然観を育成するために物理教育がどうあるべきか、探究する力をいかに育むべきかについて研究協議する。

第2分科会 「確かな未来を担う化学教育」

思考力、判断力、表現力を育み、科学的な自然観を育成するために化学教育がどうあるべきか、探究する力をいかに育むべきかについて研究協議する。

第3分科会 「確かな未来を担う生物・地学・環境教育、小・中学校や大学との連携を考えた理科教育」

思考力、判断力、表現力を育み、科学的な自然観を育成するための生物・地学・環境教育及び小・中学校や大学とのより良い連携について研究協議する。

第4分科会 「能動的学修による理科教育」

生徒が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していく理科教育の在り方について研究協議する。

研究発表 8月10日(水) 9:00～12:00 23号館

物理分野(3会場)

化学分野(4会場)

生物・地学・環境・実験・実習分野(1会場)

科学の広場 8月9日(火) 10:00～17:00 23号館

8月10日(水) 9:00～11:30 23号館

巡検 8月10日(水) 12:30～

A 砂金とり体験コース

12:30 金沢工業大学扇が丘キャンパス → 13:30 砂金とり体験(犀川上流)
→ 15:00 砂金等の分析及び解説(金沢大学) → 17:30 金沢駅

B 新幹線車両基地及び炭素繊維見学コース

12:30 金沢工業大学扇が丘キャンパス
→ 13:30 金沢工業大学八束穂キャンパス炭素繊維関係研究室
→ 15:30 JR西日本旅客鉄道株式会社白山総合車両所 → 17:30 金沢駅

C 金沢文化堪能コース

12:30 金沢工業大学扇が丘キャンパス → 13:00 兼六園(昼食を含む)
→ 15:30 金沢21世紀美術館 → 17:30 金沢駅

教育懇談会 8月9日(火) 18:00～20:00

会場 金沢工業大学 扇が丘キャンパス 21号館レストラン

参加費 4,000円

申込み 大会参加申込時にあわせてお申し込みください。

平成28年度 全国理科教育大会 石川大会 予算書 (案)

(1) 収支の部

	収入 ①	支出 ②	増減 ①-②
予 算	5,500,000	5,500,000	0
決 算			

(2) 収入の部

科 目	金 額	備 考
参加費	1,890,000	県内 3,000円×130人
		県外 7,500円×200人
補助金	700,000	日本理化学協会 650,000円
		石川県科学教育振興会 50,000円
積立金	1,620,000	石川県高等学校教育研究会理化部会
協賛金	290,000	協賛企業等
その他	1,000,000	北信越各県協力金 (200,000円×5県)
合 計	5,500,000	

(3) 支出の部

科 目	金 額	備 考
謝 金	302,000	講師謝礼、表彰者記念品等
旅 費	605,000	講師旅費、事務局交通費等
借用費	53,000	物品等借用費
印刷費	1,760,000	大会案内、会誌、論文集等
通信費	110,000	郵送費、宅配代、振込手数料等
消耗品費	550,000	事務用品、立て看板、名札等
会議費	50,000	事務局打合せ等
運営費	1,270,000	コース別研修下見、Web ページ作成等
雑 費	100,000	
予備費	700,000	大会残務処理等
合 計	5,500,000	

平成27年度 部長会・常務理事会・全国理事会 年間予定表

	部長会	会場	懇親会	会場	常務理事会	会場	全国理事会 研究協議会	会場
第1回	27.7.3 金 18:30～	巣鴨ルノアール			27.7.29 水 12:30～13:30 青森大会	青森市民ホール	27.7.29水 14:00～15:00 青森大会	青森市民ホール
第2回	28.1.8 金 18:30～	未定	28.2.13 土 17:30～20:00	茗溪会館グリル 予定	28.2.14日 9:30～10:45	理科大 森戸記念館 予定	28.2.14日 11:00～1600	理科大 森戸記念館 予定
第3回	28.4.15金 18:30～	未定			28.5.15日 9:30～10:45	理科大 森戸記念館 予定	28.5.15日 11:00～16:00	理科大 森戸記念館 予定
臨時					28.6.11土 14:30～16:30	教育・特別功労賞、 その他で問題がある 場合、常務理事会 開催 会場未定		

[備考]

- 1 上記未定の会場は会のご案内の折にお知らせします。
- 2 常務理事会・全国理事会の日程は原則として変更いたしません。
28.6.11(土)常務理事会は、28年度教育功労者、協会賞受賞者の決定等に問題があれば、開催して審議します。
- 3 平成27年度青森大会日程
会 場 7/29(水) 青森県リンクモア平安閣市民ホール
7/30-31(金) 青森県立青森東高等学校
27/7/29(水) 常務理事会 全国理事会 文部科学省講話 研究代表者会議並びに研究協議会
7/30(木) 開会式 表彰式 総会 記念講演 科学の広場(研究協議・研究発表会打ち合わせ) 研究協議 教育懇話会
7/31(金) 研究発表 閉会式(各分科会)(12:00終了) 巡検